

駝陣

嘉峪關の
地形

過ぎざるも流速急なれば容易に徒渉すべからず、故に之に架するに土橋を以てし、他は皆徒渉すべし。四清堡、丁家墩、安遠家、東積門を過ぎて、行程約十里、嘉峪關に到る。此間の地形は北に牌樓山ありて、低く且つ峻ならず、其脈延びて同關に到り、南に南山ありて、高く且つ稍々峻峻其の脈西に延びて文珠山脈と爲り、其間半圓形の平野を成し、北大河の支流灌溉自在なるか故に、地味稍々肥沃、爲めに肅州附近は人家及樹木多きも、西するに従うて住民樹木、共に頓に減少す。途上北大河の南北兩岸に、駝駝隊商の駝陣を撤して、今や各々出發の準備に忙しきを見る。

嘉峪關は磚壁を以て繞らせる一小城にして、人家約五十戸、遊撃及巡檢の二官衙、七十餘名の兵率を有し、小學堂一、釐金局、土稅局等を置き、麥及南山の玉石を出し、附近に花崗岩、石英、泥岩多く、薪、石炭共に少し。飲料は泉水を用ひて佳良なり。

地形は北に馬鬃山、南に祁連山脈ありて、土地高隆遠く東西を瞰制す。有名なる萬里の長城は此に關門を設けて最西の端末と爲す。されば世界地圖上、此地を以て支那本部の境界と爲すもの間々あるも、實際、關の西方尙ほ十數日程に在る安西城は實に甘肅省の最西なる一直隸州治の置かるゝ所なり。